



日本と東南アジア3国のコロナ禍

理事長 加納 啓良

現役の大学教員だったころは東南アジア近現代史という科目の講義を担当していたので、新型コロナ・ウイルス肺炎の今の東南アジア各国における流行の推移が気になり、3月下旬から毎日データを集めてストックしています。そのうち、アジアと交流のある3つの国についてのデータを抜き出し、日本とも比較しながら数表にしたので、お目に掛けましょう。

東南アジア3国と日本の新型コロナ・ウイルス肺炎感染状況推移（累計）

		4月1日	5月1日	6月1日	6月9日
ベトナム	感染確認者数	212	270	328	332
	死者数	0	0	0	0
	回復者数	63	219	293	316
タイ	感染確認者数	1,771	2,960	3,082	3,121
	死者数	12	54	57	58
	回復者数	416	2,719	2,965	2,973
インドネシア	感染確認者数	1,677	10,551	26,940	33,076
	死者数	157	800	1,641	1,923
	回復者数	103	1,591	7,637	11,414
日本 (厚労省発表)	感染確認者数	2,175	14,281	16,884	17,210
	死者数	57	432	892	916
	回復者数*	472	3,981	14,502	15,213

* 4～5月の日本の回復者数は退院者のみ。

6月は入院しなかった療養解除者も含む。

ご覧のように、同じ東南アジアでも様子が大きく違います。ベトナムでは感染確認者数は300人台で止まっており、死者は出ていません。タイでも3,000人程度に抑えられ、死者も100人以下です。対照的に、3月初めに最初の感染が確認されたインドネシアでは4～5月に感染者が急増して日本を追い抜き、6月に入ってから増加が続いています。ベトナム、タイでは予防のための活動制限が緩和されており、順調にいけば数か月以内に日本との一般旅行者の往来も可能になるかも知れません。

インドネシアも経済活動の麻痺を避けるために制限緩和が始まっていますが、流行が収まっていくかどうか予断を許しません。年内に日本との自由な往来ができるようになるかどうか、私自身の予想は悲観的です。

なぜ同じ東南アジアでもこんなに違いがあるのでしょうか。政府の対策の成否だけでは説明できない、と私は感じています。未知の生物学的、医学的要因（山中伸弥教授の言うファクターX）が働いているような気がしてなりません。（6月10日記）

留学生支援金 ～留学生への支援の輪が広がりました～

コロナ禍の真っ最中であった4月中旬、アジア風留学生の一人から、アルバイト先が休業で困っている、とのメールが事務局に届きました。一方、政府は紆余曲折の結果「新型コロナウイルス感染症」で疲弊している全国民に、一律10万円を支援金として給付する事を決めました。「自分にも届くこの給付金を何とか顔の見えるところに使いたい」という会員からの相談があり、直ちにメールでの理事会を開催しました。全役員の賛同を得て、会員の皆さんに4月25日の夜「支援金を留学生に！」と寄付のお願いを募ったところ、4月末には目標額を超え、5月の大型連休中に16名のアジア風留学生全員に5万円の支給が完了しました。

ご寄付は80名の会員、そして元理事長の林望さん、報道写真家の大石芳野さん、いつも応援してくださっている秋本初子さんからも届き、合計190万円となり、目標額を大きく超えました。事務局はこの状況を目の当たりにし、胸が熱くなりました。

留学生からはお礼の言葉と共に「アジア風留学生で良かった」「幸せだ」という多くの声が寄せられました。紙面をお借りして、改めて皆様のご厚情に感謝申し上げます。余剰金は留学生支援に限定し、有効に使わせて頂きます。

(事務局 古海 正子 6月10日記)

学生からのお礼状

★アジアの新しい風からたくさん応援や関心をいただいて、Iメイトのみなさんに心を込めて感謝の言葉を送りたいと思います。みなさんの好意がもらえると助かりました。必ず支援金をちゃんと考えて使います。（N.H.N）

★国籍を問わず、私たちみたいな他の国から来た留学生の生活まで気を配っている国は日本しかないと思います。日本とやさしい日本人たちに恵まれて本当に幸いです。言葉だけで表現するのが足りないですが、いつも温かいご支援をいただき、感謝の気持ち

でいっぱいです。心よりお礼申し上げます。（D.A.T）

★今回、支援していただきまして、誠にありがとうございます。緊急事態宣言でアルバイトなどが出来なくなり収入が減少する私にとって大きな支援で、非常に感動しています。（N.H.A）

☆ご援助いただきまして、誠にありがとうございます。オンライン授業を受講するためのタブレット端末を買おうと思っています。Iメイトの皆さんのご健康のほど、心よりお祈り申し上げます。

(N.T.L.A)

大学からのお礼状

★アジアの新しい風が貿易大学の留学生にご支援して下さる情報を伺いまして、本当に感動しました。心からお礼を申し上げます。（貿易大学 グエン・ティ・タン・アン）

★アジアの新しい風の皆様のおかげで、留学中も様々な形でサポートして頂いていると、タサニー先生から伺っております。日本語科の代表として改めまして感謝いたします。また、新型コロナウイルス感染症の影響を受けました日本留学中のタマサートのIメイト学生6名に対し、会員の皆様から生活支援金を給付していただいたと伺っており、心より感謝申し上げます。

(タマサート大学 シリワン・ムニンタラウォン)

★先ほど、学生からアジア風の援助を受け取ったとの連絡がありました。これについては、学部長のYuyuと学科長のRizaにもそれから他の教員にも報告をしてあります。本当にありがとうございました。

(パジャジャラン大学 ピカ イエスティア)

*編集部註 清華大学からの留学生は2月に帰国したために、今回の留学生支援金は支給していません。

「唐さん ありがとう」

唐霊慧さんは10年前に、当時交流校だった北京第二外国語学院よりIメイト留学生として来日しました。まだ10代の可愛い少女でしたが、一年余りアジ風の事務局でアルバイトをして、帰国後もずっとOGとしてつながっています。フランスで日本語の修士課程修了後、現在は上海でネットによる日本語教育に携わっているそうです。



唐さんのマスクを着けた会員

昨秋、新婚旅行先に日本を選んで10年ぶりに再来日してくれました。「あまり変わってない街が懐かしい」との感想でした。

3月30日にマスク210枚寄贈の申し出を受けてすぐ、Iメイト会員と留学生に希望者を募りました。けれどもいつ届くか不確かで、「今か今か」とやきもきする中、

唐さんはネットで追跡し、実況中継のごとく、「4月18日日本向けの飛行機に搭載された」と報告がありました。

4月25日にマスクが到着し、希望者20名に郵送できたのは、緊急事態宣言の真っ最中でした。

必ずしも好意的ではない「中国のマスク外交」を報道する日本のメディアも散見されましたが、政府間の外交がどうであろうと、草の根の交流が、まるで今回のウイルスのようにやすやすと国民国家の壁を越えて、世界を少しずつ変えていく力を持つことを信じてほしいのです。アジ風はたとえ微力でもアジアに新しい風を吹かせたい。唐さん感動をありがとう！

（理事 上 高子 6月11日記）

「マスクで恩返し」

今年の初め頃、中国武漢で新型コロナウイルスが発見された。1月23日に、武漢市が封鎖された。時は中国の旧暦新年。家族団欒を楽しむはずの中国人が、家に閉じこもるよう呼びかけられ、親戚友人に会えず、寂しい新年を過ごした。



私は1月20日に山西省に帰省した。就職してから一番長い休みとなった。2月23日、ようやく交通封鎖が少し緩和になったので、上海に戻った。まず住宅委員会に報告し、そして14日間の自粛生活が始まった。

上海はネットショッピングが発達しているので、生活用品から野菜までネットで注文して解決した。野菜などは1時間以内で

届けられた。二週間後、マスクをかけて仕事場に行った。

仕事場では、昼食の時間以外はマスクをずっとかけている。駅や住宅地に入る度、温度を計られた。「健康コード」というのがあって、住民がウィルスに感染した可能性を記した。緑だったらセーフ。赤だったら大変。

このような生活が二か月ぐらい続いた。少しずつ国内感染者が減り、ゼロ感染者の日もあった。一方、国際社会ではコロナの状況がどんどん悪くなっていた。中国のマスク供給が追いついてきたので、日本人の友人を助けなきゃと思った。そして、アジ風で親しい関係を保っている上さんと奥山さんに連絡して、マスクを寄付しようとした。

マスクが届いたら、思いもよらずいっぱい感謝の言葉をいただいた。その中に、「中国人の温かい心に触れられた」という感想もあった。私は恥ずかしながらも大変嬉しかった。アジ風とは十年前に縁を結んでから、ずっとお世話になっている。少しでも恩返しできたら、役に立てたらと思っていた。

アジ風から学んだことは、自分と異なるものに敬意を持つことだ。ナショナリズムが盛んになっている世の中では、なおさら他人に関心を持つことを忘れたくない。どんな些細な事も、善意を込めば、相手に伝わるができる私は信じている。

コロナが一日も早く収束し、安心できる生活を取り戻したい。そう願うばかりである。

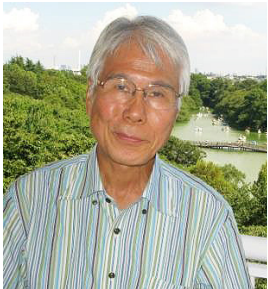
（元Iメイト学生 唐 霊慧 5月18日記）

会 員 寄 稿

コロナ後に向けて望まれる支援組織

世界は急速にグローバル化が進展していると考えられてきたが、新型コロナウイルスの蔓延という事態に遭遇し、その流れが意外に脆さを持っていることがわかった。各国が外からの人の往来を遮断し、ほとんどの飛行機が運航を停止した。

「世界は決して一つではない」ことを、今回ほど実感したことはない。自分には、実家がありふる里がある自分の国が一番安心出来て良い。それは当たり前のことで、どこでウイルスに感染するかかわらなという時に、馴染みのない他国の人への警戒がより強くなるのもまた、自然である。



日本でも労働力不足対策として研修生の名目で多くの外国人労働者を受け入れ始めたが、その政策もコロナ禍のため頓挫している。心もとない雇い主のために行き場を失って途方に暮れる人たちも多いと聞く。

希望に胸を膨らませて来日した留学生たちも、学習が滞り、バイト先を失って計画が狂った人が珍しくないだろう。アジ風が会員から寄付を募って支援に乗り出したのは、ささやかな活動ながら妥当だと思う。

コロナ禍はこれから収束に向かうとして、その後の世界はどうなっていくだろうか。水を差されたとは言え、グローバル化が逆行することはあり得ない。とすれば、脆さを修復する形での国際協力が何よりも望まれるが、「自国第一」の米国、中国など現在の各国のリーダーを見る限りは非常に心もとない。

留学生に関しても、今後は希望者が激減することが予想される。夢物語かも知れないが、国際的な留学生の支援組織が出来ればと思う。しかしそれには多額の資金が必要で、どういう形にせよ、草の根の民間の力を結集しなければなるまい。アジ風会員の間でも議論を始めることが、その一歩となるかもしれない。

（正会員 小田 晋作 6月16日記）



アマビエ 西垣大介さん作
丹波新聞提供

COVID-19後のバンクーバー生活

パンデミック宣言直後の3月中旬、カナダでは首相からのコロナ対策のための緊急記者会見があり私は職場の会議室で見守りました。



井村さんご家族

外国人の入国禁止、不要な外出の制限措置が出され、太平洋岸に面したBritish Columbia (BC) 州の非常事態宣言を受け、翌日からの在宅勤務が即決定しました。会见数日後には、小売店や飲食店、公園や図書館などの公共施設もほぼ閉鎖となり、トップダウンの決断と指示の速さ、対策実現のための創造力と実行力の高さに、非常に驚きました。被解雇者に対する支援金(国から4か月間月額2千ドル、BC州から一時金千ドル)、光熱費や賃貸補助などもその後1-2週間で決定し、給付も迅速に行われています。

日本の対策は詳細には把握していませんが、「非常事態宣言の発表を準備中」がニュースになる慎重な根回しの文化や、学校でオンライン授業が即座に開始しない様子に、公平性重視の社会的特性を改めて感じました。在加邦人からは日本の悠長さを心配する声もありますが、日本の感染者数を見る限り、対人距離や衛生観念などカナダとは違う社会文化的な特性もプラスに働いている要因だと思います。

移民国家でもあるカナダでは情報弱者に配慮し、重要事項は多言語、手話等で発信される一方、アジア系住民への差別の顕在化や暴行事件がニュースになる現実もあります。

移民国家でもあるカナダでは情報弱者に配慮し、重要事項は多言語、手話等で発信される一方、アジア系住民への差別の顕在化や暴行事件がニュースになる現実もあります。

また、アジ風の皆さんに感心があると思われる留学生支援に関しては、アルバイト時間の制限緩和や入国できない学生に対する渡航前学習の時間枠拡大など措置が実行され始めたところ。小売店や公共施設も再開し始めましたが、学校は自由登校、仕事も在宅勤務が続き、今後も「新しい日常」へ適応期間が続きそうです。

(賛助会員 井村 プールサップ 倫子 6月10日記)

*編集部註 2005年から2011年までアジ風理事。ご家族でカナダに移住され、現在バンクーバー在住

新型コロナを、差別でなく自省を促すウイルスに

今年2月にシンガポールに帰国していた時、どこでも検温や消毒の連続でしたが、なぜか一か所だけ、観光客もよく訪れるリトル



インドニアにある大型24時間ハイパーマーケットでは、それらの措置が皆無でした。豊富な品揃え、何より安いということも多く、南アジア系外国人労働者が買い物をするそこは、異国情緒を楽しむために僕もよく日本人の友人を連れていく場所です。まさにここを中心に、コロナ対策で優等生と評価されたシンガポールの感染者数が4月以降爆発的に急増したのです。

6月15日現在、無症状を含む感染者数が4万人を超えたシンガポールの死者数が26名という世界でも稀な異常さの背景には、感染者の9割以上が若くて丈夫な男性外国人労働者だからです。工事現場で働く人だけでも約30万人はいるこれら労働者に用意

された寮がずばり「3密」状態で「逆ゲートコミュニティ」(*編集部註「ゲートコミュニティ」とはシンガポールや米国でよくみられる塀に囲まれた高級住宅街で、ゲートでは警備員が訪問者をチェックします)ともいえることは、各国で報道された通りです。社会的盲点(social blind spot)だったという国内識者の発言には心底呆れました。

数十万もの人がなぜ見えない「点」になるのか、コロナ禍を機に外国人労働者への待遇の見直しと自省を願ってやみません。

日本もシンガポールの事例を対



シンガポールで働く外国人労働者が暮らす寮

岸の火事と見ずに、国内で働く外国人労働者や出稼ぎ留学生が、行政の管理する寮がないだけに、それこそ社会的盲点になってはいないか、自省すべきでしょう。「民度が高い」日本なら、それは難しいことではないはずです。

(昭和女子大学・現代教養学科准教授 シム・チュン・キャット 6月15日記)

他人の立場に立って考える

「新しい普通」という言葉を最近よく耳にしますが、不思議で仕方ありません。「他と特に異なる性質を持つてはいないさま」といった定義に納まれながらも、各個人、各組織、そして各地域にとっての「普通」は元々違うのではないのでしょうか。

イギリスでは2020年1月末に最初の感染ケースが確認されたにもかかわらず、具体的な対策及び移動制限が施されなく、政府は「集団免疫」戦略を追求しようとしていました。だが、3月末に方針が転換し、2か月の完全ロックダウンもその時点から始まりました。それでも3万人が亡くなり、その約半分が80歳以上の高齢者でした。この悲惨な結果に面して、権力者の考える「普通」はもしかしたら私たちの考える「社会の最も弱い立場の人たちを守る」とは違ったかもしれません。



ロックダウンの間、最低限の外出しか許されなく、本当に人は「封じ込め」の生活に強いられていました。閉鎖対象施設の中に大学が含まれ、全ての試験や授業、面談をオンラインに代わりました。直接授業を受けられず、友達に会えず、小さなパソコンの画面と会話し続ける事は勿論私の考える「普通」ではありません。ただし、この状況は体が不自由な方々、精神病患者のいつも通りなのかもしれません。

新型コロナウイルス感染症はきっと終わりを迎えます。お店はまた開き、人はまた集うようになります。手洗い・マスク付けるなどの簡単な行動は自分自身の衛生管理だけではなく、どこかにいる脆弱な方が救われるという心構えに繋げて行きたいと思います。私は「新しい普通」より「他人のため、他人の立場に立って考える習慣」の芽生えを期待しています。

(賛助会員 ブイ ハン 6月17日記)

*編集部註 ブイ ハンさんは、学部時代にベトナムから日本に留学し、現在はイギリスの大学院で学んでいます。



タマサート大学の I メイト紹介は、曾我部健さんとシャワンラック・ウットティセンさん、西澤逸美さんとナット・タンブームさんの二組です。シャワンラックさんは北海道大学に留学中、ナットさんはタマサート大学に在籍中です。3月中旬から大学は閉鎖されナットさんも実家に戻り、オンライン授業に切り替わっていましたが、感染拡大も抑えられているようで安心しました。

(タマサート大学 I メイト交流コーディネーター 中村 泰寿)

曾我部さんとシャワンラックさんのメール

曾我部さん → シャワンラックさん 2020年3月3日



北海道の生活になれましたか? でも春はもうすぐやってきます。春の北海道は花が咲き乱れ本当にきれいですよ。今日はひな祭りですね。我が家は子供がいないので小さなおひな様を飾っています。

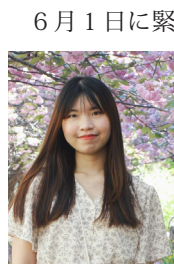
シャワンラックさん → 曾我部さん 4月24日

コロナウイルス感染拡大の状況が深刻になっているのでちょっと不安です。今はストレスがたまらないように色々な方法を探して試しています。例えば日本料理やチーズケーキを作ってみる事です。結局スキーはしませんでした。友達が興味なくて一緒に付き合ってくれる人がいなかったことと、1月と2月は試験と発表会で忙しかったです。学校が休みになってもコロナウイルスの感染拡大が始まっているのでスキーはできませんでした。本当に残念です。

曾我部さん → シャワンラックさん 4月28日

北海道の寒さに慣れたとのこと、さすがに若さですね。コロナウイルス感染は北海道では又増加しているようですので本当に気を付けてください。私は散歩と趣味の木彫り以外は自宅で過ごしています。給付金が支給されることになってよかったですね。

シャワンラックさん → 曾我部さん 6月6日



6月1日に緊急事態宣言が解除され、人々は普通の生活に戻りました。正直に言うと、まだ安心できず出かけるたびにちゃんとマスク付けています。3か月ぶり、公園や大学に花を見に行きました。北海道の春は思ったより短いので、花を見るのが間に合えて本当に良かったです。綺麗な花たちに癒されて、春の美しさを実感しました。オンライン授業は非常に大変で、インターネットの状況が悪くなると授業の内容が理解できなくなります。又宿題も普通より多いです。いただいた支援金は主に生活費に利用しています。日本語の教科書や新しい文具が買えました。9月の帰国までにもっと面白い日本文化や人々の習慣に関する体験をしたいと思っているので、残っている支援金を日本語の勉強と北海道での旅行に利用したいと思います。

西澤さんとナットさんのメール

西澤さん→ナットさん 2020年4月6日

新型コロナウイルス感染拡大で日本と同様にタイも大変な状況だと思います。私自身も外出自粛、手洗い、うがいを徹底しています。今の季節は桜のシーズンですが、落ち着いて楽しめないのが残念です。友人のアマチュアカメラマンが京都の桜を撮影してくれましたので、少しでも気持ち前向きになりますよう、送ります。



ナットさん→西澤さん 5月21、23日

お久しぶりです。おかげさまで元気ですよ。素敵な桜の写真など、日本の光景を見せてくれてありがとうございます。タイでのコロナ感染が、以前は深刻な状況でした。私もウイルスにかからないように、実家に戻りました。とはいえ、私の住んでいる市は感染者が5人もいました。バンコクに移動されたという話を聞きましたが、あの時は本当に不安でした。それで、私はずっと家にこもって、オンライン授業を受けました。最初はこれで楽だと思いましたが、意外と大変でした。ネットワークの問題がたくさんあったりしました。それに、友達と私語などをできなかったです。寂しくて大学生生活の雰囲気恋しいくらいでした。

ですが今のコロナ感染の状況は少し落ち着いてきます。別の県に住んでいる友達に聞いてみると、この28日間、感染者がいませんでした。それに先日、デパートやコンビニがどんどん開店し始めました。デパートに入る前には体温を調査され、何時に入ったかを分かるようにスマホでチェックインします。出る時もチェックアウトします。そして、皆がマスクをつけなければなりません。ちょっと厳しいですが、皆の安全のためでしょうね。このままで続くと、元の生活に戻れるかもしれません。大学生活に戻るのが楽しみです。



西澤さん→ナットさん 5月24日

日本と同様に、タイでも感染拡大が抑えられているようで安心しました。ナットさんが大学に戻り、友達と一緒に日本語の勉強などに励まれる日が早く来ることを願っています。

今後の主な予定 *詳細はHP参照 : 9月12日(土) 第18回アジ風総会 詳細は未定

・・・編集後記・・・

新型コロナウイルスの感染拡大とそれに続く緊急事態宣言を受けて、アジ風の各種イベントも延期または中止になってしまいました。とりあえず日本はクラスターの抑え込みに成功し、医療崩壊の最悪事態は避けられましたが、第二波・三波も同じように抑え込むことができるのか懸念されます。その中で発行される夏号は、加納理事長からの東南アジアにおける現状をはじめ、世界各地の感染防止対策について会員やアジ風の活動に協力いただいているシム先生から寄稿を頂きました。また、急遽決定された留学生支援のために、多くの会員の方から予想をはるかに上回るご寄付を頂きました。更には10年前に日本に留学された中国の元 I メイト学生の方からマスクの寄贈を受け、留学生をはじめとする会員の方々にもお配りすることができました。

世界中に蔓延しているコロナウイルスは不幸な出来事ではあり、それに比べれば小さな輪の中のことかもしれませんが、アジアの新しい風の相互支援という草の根の取組みが全世界のNPO・NGOに広がっていけば、と夢想しています。

(伊藤 莞爾 6月20日記)